

匠技 1本!!
磨しき極品
珠玉のアニメーションモデル

世界が注目する特別な「和」テイスト

その名は

琉雅 -りゅうが-

CAMPANOLA 15th Anniversary

カンパノラ15周年記念モデル メカニカルコレクション

86万4000円

SS。シースルーバック。日常生活防水。自動巻(手巻機能付)。パワーリザーブ。ビッグデイト。デュアル球面サファイアガラス風防。三つ折プッシュタイプ中留スモールクロコイルベルト。



シチズン系トップエンドブランドのCAMPANOLA-カンパノラ-が誕生して15年。

それを記念したモデルのひとつが、この「琉雅-りゅうが-」だ。

時計技術を余すことなく投入され、さらに会津漆の名匠の手でひとつひとつ仕上げられる螺鈿の銀河が文字盤いっぱい広がる。

そんな琉雅-りゅうが-はカンパノラ史上、最も美しいモデルのひとつである。



着けた瞬間から フィットするケースデザイン

ラージサイズケースなのに抜群のフィット感。それはシチズンの腕時計作りのノウハウと最新の人工工学を駆使した結果だ。風防はデュアル球面サファイアガラス。ドーム型の独特なフォルムが印象的で、しかもどの角度からでも時刻が読みやすい。



厳選された素材 ワンランク上の バックル

ベルトの素材は最上級のスモールクロコタイル。しかも肚の「竹斑」と呼ばれる部分で、すべてのスモールクロコタイルレザーからとれるわけではない希少な素材だ。3つ折プッシュタイプ中留式で、ベルト緩みや伸びを気にせず脱着にも便利。



名匠が丹精をこめた 会津漆の銀河

電気鑄造という高度な金属加工技術で作られた文字盤の土台に、漆を5層に渡って行われる漆塗り。しかし、それはまだ「下地」で、さらに極薄の貝による装飾を施し漆でコートする螺鈿細工で仕上げる。琉雅—りゅうが—のダイヤルは、会津漆の伝統工芸士、儀同哲夫氏によってひとつひとつ手仕事で作られている。



精度はもちろん仕上げにも注目

搭載されている手巻機能付き自動巻ムーブメントはCal.513と呼ばれる。カンパノラ専用として、スイスのラ・ジュール・ベレ社が制作したもの。時、分、秒の3針同軸式でおよそ2日間のパワーリザーブとビッグデイトを備えるタイプだ。またラ・ジュール・ベレの手がけるムーブメントは仕上げの美しさでも定評があり、琉雅—りゅうが—のシースルーバックウインドウは必然といえる。



7/1
~31

CAMPANOLA HANAJIMA FAIR

CITIZEN協賛 CAMPANOLAフルバリエーション展示

特典

- 1 現金支払の場合、お支払い金額の
10%分のハナジマ商品券を進呈
- 2 クレジット**100**回払い 金利手数料0円
ハナジマが金利手数料をすべて負担
- 3 期間中ご購入のお客様に
「CAMPANOLAメモパッド」プレゼント
- 4 ご来場者に「シチズン特製粗品」プレゼント



細部まで こだわり抜いた名品

ダイヤルは五徳に発想を得た立体的なデザイン。パワーリザーブインジケーターの枠にも金属加工技術を生かした美しいパーツを採用している。また針も視認性を確保しつつ凝ったデザインで、製作にはやはり高い金属加工技術が必要だ。リューストップにはカンパノラのトレードマークをアップライトに造形している。

ハナジマ

☎03-3652-8740
<http://www.hanajima.com>
東京都江戸川区松江7-11-3
営業時間:10:00~20:00
定休日:火曜日
駐車場完備

細部までこだわり抜いた名品

朝の清々しい空気に響き渡る教会の鐘の音で目を覚ます。そして忙しかった昼に別れを告げるように鳴り響く教会の鐘の音とともに、家路につく。ヨーロッパの古い街には、決まって時を告げる教会の鐘がある。

一説には、南イタリアのナラという街の教会にあるカンパノラベルが、史上初めて鐘の音で街に時を告げた鐘だったと云う。

「時を知るだけでなく、時を愉しむためのタイムピースとして……」

2000年に国産ハイエンドブランドのカンパノラがデビューしたとき、ブランド名には伝説の教会の鐘の名がチョイスされた。しかもトレードマークもカンパノラベルがモチーフとなった。

琉雅—りゅうが—はカンパノラ誕生15周年を記念したモデルのひとつだ。ラージサイズだけではない、デザイン、グループのデザイン、カンパノラ独自の球面風防、スモールクロコタイルの肚草の中でも厳選した「竹斑」と呼ばれるベルト素材、ラジュール・ベレのムーブメント……。こだわりはいくつでも列挙できるが、その中でもやはり文字盤は格別だ。

電気鑄造という技術で作られたペーリスに、会津漆の名工儀同哲夫氏がひとつひとつ渾身の螺鈿細工を施した文字盤は、まさに「和」の逸品。腕時計に目をやれば、時を知らせる針の動きの向こうで、天の川銀河のような煌めきを愉ませてくれる。

こんな時計を放っておけるのか？ 放っておけるわけではない。